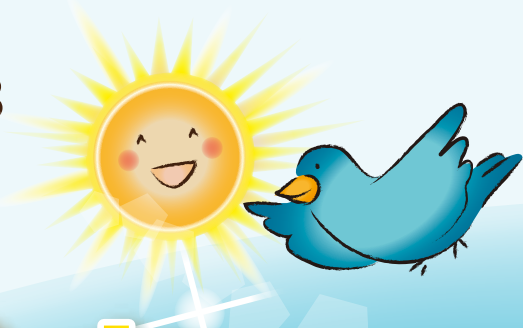


かがやく



明るい子育て かがやく未来

～子どもは夫婦の、そして社会の宝です～



子育ては男女が共同で成し遂げる一大プロジェクト。
特に乳幼児期の育児にも積極的に関わろうとする父親が増え、地域ぐるみで子育てを支援する時代を迎えています。
市内で、子育て未経験の10代、子育て現役の20～40代、子育てを終えたシニア世代の方々の声を集めてみました。

子育て未経験の10代

子育て現役世代

シニア世代

P4…〈連載〉その道のプロにきく File No.4

整理整頓の達人にききました

整理整頓・収納のコツ、5分で部屋をきれいに保つ習慣

我孫子市は千葉県で唯一の
男女共同参画宣言都市です

赤ちゃん抱っこして、どうだった？

昨年12月に県立我孫子東高校で行われた「子育てサロン」(★1)に参加した高校生の声を聞きました。



▲絵本の読み聞かせにも挑戦
◀我孫子東高校の「子育てサロン」の様子

★1 高校生の子育てサロン：我孫子東高校が布佐地区社会福祉協議会と共催し、家庭科の保育学習の一環として、地域に住む乳幼児の親子とふれあい、保育への関心や子どもの発達への理解を深め、親になることを考えるカリキュラム。生徒が赤ちゃんを抱かせてもらうほか、手遊び、読み聞かせなどの体験や、親への質問コーナーがある。



▲「温かくてかわいい」と思わず笑顔

10代の声

「子どもが欲しいという気持ちが強まった」(女子)

「同年代の友人にはすでに妻子がいて、赤ちゃんには身近に接しています。自分もいつか父親になりたい」(男子)

「子ども中心の生活は大変そうだけど、楽しいことも増えるのですね」(女子)

「母につわりや出産時のことを尋ねたことがありませんでしたが、聞いてみようと思いました」(男子)

「参加したお母さんたちが、わが子から目を離さず、しっかり見ていたのが印象的でした」(女子)

「出産は長時間にわたることもあると聞いて、大変だなと思った。自分の子どもの時は出産に立ち会いたい」(男子)

男子は理想の父親像、女子は現実問題に興味津々～「なぜなぜタイム」から～

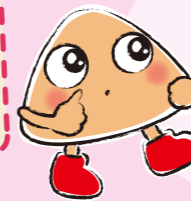
なぜなぜタイム 質問と回答(抜粋)

Q.夫にしてほしい事は何ですか？

A.子どもを入浴させてほしい
子どもと遊んでほしい
母親(妻)に一人の時間をあげてほしい
血洗い・風呂掃除・洗濯・料理
できること全て

Q.子育てでうれしさや幸せを感じる瞬間は？

A.子どもの成長を感じるとき
全力で抱っこを求めてくるとき
ほほ笑んでくれるとき
寝顔を見ているとき



生徒から乳幼児の親に質問する「なぜなぜタイム」では、女子からは出産後の生活の変化や子育ての大変さを問う現実的な質問が。一方、男子からは、女性にしかわからないつわりや出産時の様子についてのほか、子育てをするなかで夫にしてほしいことに関する質問が数多くあがりました。



◀ママたちからの回答を熱心にメモ

～生徒へのアンケートから～

「将来子どもを欲しいですか」という問いに「はい」と答えたのは、参加前の74%に比べ、参加後は82%に増加。子どもが苦手だった生徒も、ふれあうことで子どもへの関心が深まったようです。夫婦で協力して子育てをすることや、育児休暇・保育園を利用し働きながら子育てすることを望む生徒も増えています。

我孫子のイクメンパパ、増えています

育児真っ最中の世代に、夫婦間での協力や市の子育て環境などについて、保育園や子育て支援センター(★2)で声を集めました。



20s 40代の声

「夜中の授乳など大変な時期で、夫は食事の支度や子どもの入浴、寝かしつけなど、進んでしてくれています。我孫子は公共施設と学校、学校同士などの連携体制が良いと感じます。子育てイベントも豊富ですね」(20代：育児休業中・乳幼児の母)

パパも育児に奮闘中。▶保育園のお迎えは洗濯物などの荷物がいっぱい

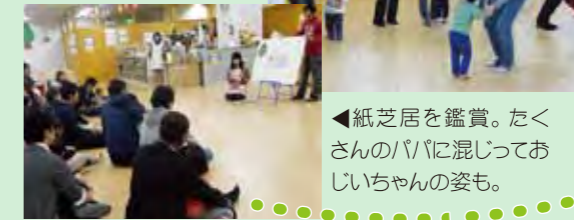
「早く帰宅できる時は保育園のお迎えに行きます。限られた時間でも、家族一緒に過ごす時間を大切にしています」(40代：保育園児の父)



「私も夫も我孫子が地元。お互いの両親も我孫子に在りで、子どもの面倒をみてもらうことも多いです。我孫子は緑や広い公園に恵まれていて、子育てに良い環境ですね」(30代：乳幼児から小学生までの3児の母)

にこにこ広場より

音楽に合わせて、親子で身体を動かします▶



◀紙芝居を鑑賞。たくさんパパに混じっておじいちゃんの姿も。

「休日は妻が買い物に行く間、子どもと遊ぶことが多いです。成長するにつれ、一緒にできる遊びが増えるのが楽しみです」(40代：乳児の父)

「妻に教えてもらって、にこにこ広場に参加。今日で2回目です。もっと子どもとの時間を作りたくくなりました」(30代：乳児の父)

行ってみよう！



★2 我孫子市子育て支援センター：乳幼児と保護者が子どもを遊ばせながら、親同士の交流を持てる広場。にこにこ広場を含めて市内に4か所あります。休日には父親の来所も多く、「enjoy!」応援プロジェクトなど、子育て応援イベントも各種開催。

にこにこ広場(我孫子) すすく広場(天王台) わくわく広場(湖北) すこやか広場(布佐)

子・孫世代へのまなざし

おじいちゃん・おばあちゃん、地域の子育てに関わるシニア世代は、今の子育てをどう見ているのでしょうか。

シニアの声

「私の時代は、家事も育児も私一人の仕事でした。今は共働き家庭も増え、状況は変わりましたね。我孫子では保育園の待機児童がゼロ。働く環境も整っています。若い人たちには夫婦で助け合って、子育ての大変さや喜びをぜひ知ってほしいです」(70代：保育園児の祖母)

「孫を預かると、子育てしやすい環境の大切さがわかります。若い時は仕事重視であまり子育てに関われませんでしたが、孫とのふれあいを大切にしたいです」(60代：乳幼児の祖父)

「医療費の助成など制度も整い、昔より育てやすい環境になってきていると思います。孫を連れて食事や買い物などで商業施設に行くと、子連れにやさしい工夫がいっぱいあることに驚かされます」(60代：幼稚園児の祖母)

声をかけながら、小学生の登下校を見守る▼



あなたが子育てで得たものは？

市民活動フェア(2013年11月開催)参加者の声から



自身の成長

親への感謝

やさしさ

忍耐力

人の気持ちが分かる力

社会性

学校や地域との関わり

生きがい

幸福感

子ども目線の考え方

子どもと一緒に、親も成長できる子育てができれば、すてきですね。あなたはどう思いますか？



回答者：浜中容子さん
衣食住・家計・子どもの生活についての勉強会などを行う「全国友の会（松戸友の会）」我孫子支部の会員歴42年。家事・家計講習会を担当。転勤族だった育児期間を経て、我孫子に定住して30年になる。



★生活導線に合った物の置き場所を決める



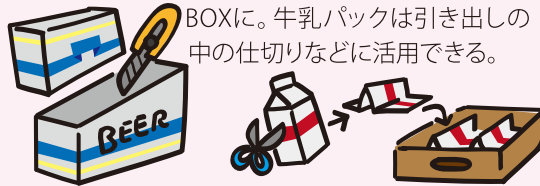
★基本は縦収納
重ねない

★1ジャンルで1つの箱に
箱に収まる量の物しか持たない。
箱はぎゅうぎゅうに並べない。

★ラベルを付ける
写真やイラストでも良い。
取っ手を付けると取り出しやすい。



★収納グッズ
段ボールを斜めに切ってファイルBOXに。牛乳パックは引き出しの中の仕切りなどに活用できる。



★定位置が決まるまでの「自由席」があっても良い

物の整理は心の整理
これは必要だろうか？
と心に引っかかる物は
不要な物かも。必要な
物が不要な物かを選ぶ
ことが「整理」です。

Q 僕は実家暮らしの大学生です。整理整頓が苦手なのですが、この春から就職し、一人暮らしを始める予定です。今からでも身につけられ、続けられる整理整頓のコツを教えてください。

A 私の息子も苦手でしたので、同じように一人暮らしを始めるとき、簡単に継続できる方法を教えました。すっきりと暮らすための基本は「出したらしましう」です。取り出しやすく、しまいやすい置き場所を決めることで、整理のほぼ半分は達成できます。

また、きれいな部屋は、たった5分の習慣で維持することができます。少なくとも週に1回はビニール袋を持って部屋の中を回り、ごみ集めをしましょう。5分あれば脱ぎっぱなしの洋服も意外と片づけられます。

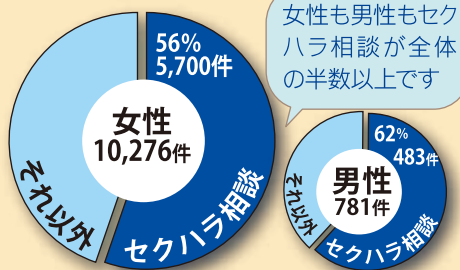
我孫子市の男女共同参画情報

セクハラのない
社会に

セクハラ(セクシュアル・ハラスメント、性的いじめ・嫌がらせ)の対策が定められた男女雇用機会均等法(以下「均等法」)がスタートして約30年。しかし今もセクハラはなくなり、近年増えてきた男性の相談でもセクハラが圧倒的です(右図)。

昨年7月施行の改正均等法には「性別役割分担意識に基づく言動が、セクハラの原因や背景にある」との内容が加わりました。この言動はジェンダー・ハラスメントとも言い「性的ではないが性別に関係する不快な言動」としてセクハラと分けています。例えば「女にはしておくにはもったいない(ほど、仕事ができる)」「(女の仕事なのに)男がお茶を出すなんてみっともない」など。男女を対等と見ていない差別意識が隠れています。

労働相談の件数 セクハラとそれ以外の割合



女性も男性もセクハラ相談が全体の半数以上です

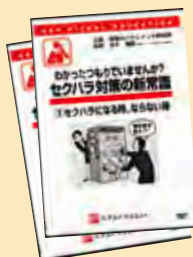
▲厚生労働省「平成25年度 都道府県労働局雇用均等室での法施行状況」(男女雇用均等法関係の相談)から作成

セクハラもジェンダー・ハラスメントも不快なことは、はっきり伝えましょう。「冗談がセクハラ扱いされては気軽に話もできない。軽く受け流すのが大人」といった風潮が根強くありますが、人を傷つけても平気な冗談は、大人の言動ではありません。職場でも地域でも、互いに配慮ある関係を築きたいものです。

■セクハラに悩んでいたら…

まず職場の相談窓口へ。
市の社会福祉課でも相談窓口を開設。
男性も相談できます。

TEL:04-7185-1111(内線394)



■職場や地域の仲間と勉強会を…

教育委員会視聴覚ライブラリーでは多数の教材を貸出中。詳しくは市ホームページ たのしみ・観光>視聴覚ライブラリーをご覧ください(左は「セクハラ対策の新常識」アスパクリエイト)。

サシカクちゃん
—夢見る子育ての巻—

